

僧  
智  
慧  
の  
環

二編  
下

阿  
の  
巻

44/50

K11081  
1a  
5

K110.81

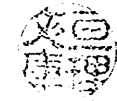
1a



古今の文

詞の巻

二編下



○母韻 子韻 のこと

母韻 ボ とと アイウエオ の ハ 行の 音 コ あり。

子韻 とと のり 四十五 音 カ のこと あり

みぎの ハ 行の コ 音 カ のこと 四十五 音 と

う マ ま キ リ の コ 音 ハ 行の コ 音 ハ 母 カ の

こと カ。四十五 カ と コ の コ 音 カ のこと あり

母韻 ボ 子韻 カ マ フ ホ と フ マ メ ム モ 韻

と カ 音 カ と マ フ ホ ト ヤ ウ ム コ ム と

あり あり

才、不<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>んのこと<sup>ヲ</sup>を單<sup>レ</sup>音<sup>ト</sup>といひ。志<sup>レ</sup>ん  
 のことを複<sup>レ</sup>音<sup>ト</sup>といふ。その單<sup>レ</sup>といひ<sup>レ</sup>ん  
 の。複<sup>レ</sup>音<sup>ト</sup>は<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>ん<sup>ノ</sup>といふ<sup>レ</sup>らる<sup>レ</sup>る。不<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>ん  
 は<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ノ</sup>こと。志<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>ふ<sup>レ</sup>ん<sup>ノ</sup>こと。志<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 あり

このひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>ふ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>といふ<sup>レ</sup>らる<sup>レ</sup>る。た<sup>レ</sup>ま<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>む  
 した。ま<sup>レ</sup>が<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 たび<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>べし。ア<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>は  
 こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る。イ<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 ウ<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>の<sup>レ</sup>こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>べし。こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る

ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>あり

志<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>カ<sup>レ</sup>キ<sup>レ</sup>ケ<sup>レ</sup>コ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 べし。カ<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 ク<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>る。ケ<sup>レ</sup>は<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 小<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>べし。ア<sup>レ</sup>と<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>ら<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>や<sup>レ</sup>ア<sup>レ</sup>は  
 乃<sup>レ</sup>こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る<sup>レ</sup>あり。志<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>ア<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る。ま<sup>レ</sup>が<sup>レ</sup>四<sup>レ</sup>五<sup>レ</sup>切<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>を<sup>レ</sup>ふ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る。志<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>ア<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 け<sup>レ</sup>こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る。志<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>ア<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る  
 こゝろ<sup>レ</sup>に<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る。志<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>ア<sup>レ</sup>イ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>エ<sup>レ</sup>オ<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>ひ<sup>レ</sup>ん<sup>ト</sup>と<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る



とありとゆふことあり

みぎのみつと存人を第一入稱 第二入稱

第三入稱 とあづく

第一入稱 とみづるのとありありたると

源義經

此書 存づく ありし 改る 意趣ハ

存との ごとく。みづる こと あり あり

その 存と 第一入稱 の ありとありとゆふの

あり。この 義經 と ありとあり 第一入稱

の ありとあり あり

たるとありとあり あり

臣准

ととが あり

かき。まゝて ありとあり 何の誰 ととが

ふ城 ありとあり 第一入稱 の ありとあり あり

第二入稱 とありとあり ありとあり。ありとあり

ありとあり ありとあり ありとあり ありとあり

その ありの ありとあり ありとあり ありとあり 太郎

てありとあり ありとあり の ありとあり ありとあり 太郎

第二入稱 ありとあり ありとあり ありとあり

ありとあり ありとあり 何の誰 ありとあり

ふら。第二入稱 の ありとあり ありとあり

第三入稱 とありとあり の ありとあり ありとあり



ひだり 男性の存を度 女性乃 ありて

男 天 父 祖 伯 兄 息 姪  
男 妻 父 父 父 弟 男 男  
女 婦 母 祖 伯 子 婿 姪  
女 女 母 母 母 母 女 女

男 帝 下男 僧  
女 姑 姉 女 姉

まゝめ を せよ こと あり  
ついで 男女 を くら こと あり  
ひだり の こと あり  
女性の 存を度 男性の ありて  
牝牛 牝馬 牡牛 牡馬



北イノ犬イノ 北イノ猫イノ 雌メ

北イノ犬イノ 北イノ猫イノ 雄オス

あま

を

う

を

女メと陰イとし。男オを陽ヨとす。こ  
のいふ。陰イを女メ性セイのちとす。陽ヨハ男オ性セイ  
乃ナあまメとあまメし。日ヒを太タ陽ヨと  
いひ。月ツキを太タ陰イといふ。男オ女メとわたり  
ていふあり。まね日ヒといひ。太タ陽ヨといひ

いふ。こゝに。う。後。あま。を。あま。を。あま。を。  
男オ性セイのあまメ性セイなり。月ツキといひ。太タ陰イと  
いふ。乃ナあまメ性セイのあまメ性セイなり。女メ性セイのあまメ性セイなり。

この不フ男オ女メ不フ中チュウ性セイを中チュウ性セイの  
不フ男オ女メといふ。中チュウ性セイとす。不フ男オ女メの  
といふ。こゝに。あまメ性セイのあまメ性セイなり。男オ性セイの  
あまメ性セイなり。女メ性セイのあまメ性セイなり。中チュウ性セイの  
あまメ性セイなり。男オ性セイのあまメ性セイなり。女メ性セイの  
あまメ性セイなり。中チュウ性セイのあまメ性セイなり。







ひびくことばのこぼし

茅四格のを成るごとくこぼし。たゞ金も

を成るごとくひびくべきやうに

ひびくことば

茅四格 乃を小も ひびく ひびく ひびく ひびく

ひびく ひびく ひびく ひびく ひびく ひびく ひびく ひびく

こぼしを つまみこぼし

たり かつのこぼし 茅四格のこぼし

茅四格 乃と 志すべし

はるごとくおぼし なるが 格

あり 歌仙 人麻呂のこぼし

ひびくことばのこぼし 茅四格と 志すべし

ひびくことばのこぼし 茅四格と 志すべし

ひびくことばのこぼし 茅四格と 志すべし

格と 志す 茅四格のこぼし 志す 茅四格

と 志す 志す 人麻呂と 志す 歌仙

と 志す 志す 人麻呂 志す 志す

と 志す 志す 世に 歌仙と 志す 人麻呂と 志す

と 志す 志す 志す 茅四格 志す 志す

と 志す 志す 志す 大陽と 志す 志す 大陽



孝行のさやし

凡世間ニ小シり人ノ貴キとシて賤シとシて  
 父母ノのコトを守る人也あるは甚だニ父母  
 を我身ノの出来トし本カあリきト本カ  
 を任忘ルる所たニ所ナり況シて養育  
 乃レ恩ト山トもモをク海トもモもシレ  
 心ヲ忘ルる所也今モ孝心トシ本カあリきト

先哲ノ父母ノ恩ヲをシくシてシレ  
 先ト月ノ間ニ懐胎ス一トりシレト也母  
 我ノ身ヲ生ミてシレト也幼雅ノ不ト  
 七ト父母ノ不ト晝夜ニ艱難ヲ辛苦ヲをシレト也  
 常ニ不ト老ト風ヲをシレト也抱キてシレト也  
 少シも病ヲあリて煩シレト也神ヲ  
 祈リて醫ヲをシレト也我ノ身ヲもシレト也  
 不トレト也思ヒてシレト也子ノ乃レ息ヲ小シレト也

成長を待たず  
 外々何の願ひも  
 其子稍長ずくまで  
 多き多き小師を  
 撰び藝を学ぶも  
 一人も志すこと  
 其の家業を継ぎ  
 ひる家系をたもて



をいふは婦人たるに  
 此の世に立下りて  
 或は一行た交り  
 の難き事なり  
 二所ゆきし  
 其屋を一生の  
 多きとせぬこと  
 子成に於りぬ時





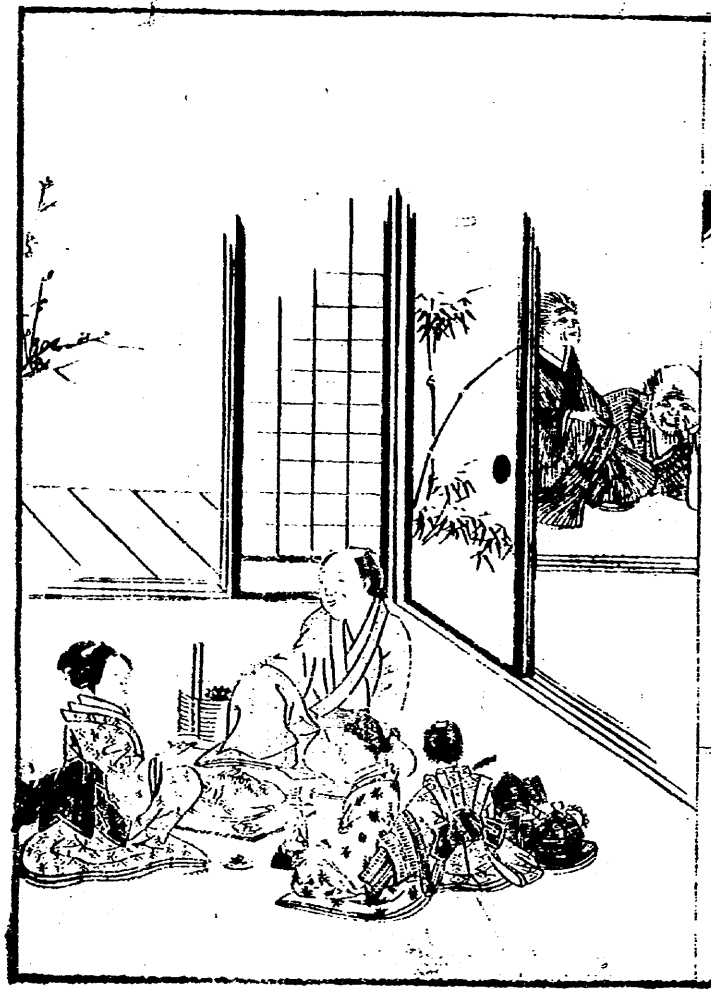
以て親を父母乃身を孝養はとも其心  
 を安せよとて。大なる不孝といふ  
 べし。何事も父母の教訓ふたはる  
 世法をおぼへてよく身を守り家  
 をたろべし。其子の心の中を以て  
 安堵をよそと。父母は心中を以て  
 其を父母の志を養ふといふあり



常小 ねよべし。 幸むまを  
 存生の日なることを。 今この時  
 及て 孝養を以てせよ。 父母死し  
 悔し かなる 厚き也。 たる 山海  
 珠物を 手あへて 手内紫る こと。 時  
 の 蔬菜は せよべし。 以て 今  
 世の人 父母の 養を 大切の 小  
 愛の 妻子 たる こと。 妻子

夫了 又も 得べし。 夫 一 夫 夫  
 婦を 得 得る ありと 父母 人  
 の 子 たる あり 是を 柱も 孝  
 然 起さる 為た 今の 世や 孝心 何と  
 身 小 方 だ。 眼前 妻子 乃 愛 一 以て  
 朝夕の 勤 以て 身を せし  
 世 たる 妻 子

智珠



小あなご。以てよく父母の川をこ  
ていふ。おふ。其言兼。取入。心小  
作られた。比も父母をうむ心  
有りぬき。こを。以ふも。何處か  
おま。よく。おひ。我身。十四五歳  
たは。妻や。いふ。おし。子  
いふ。おふ。おし。この時。我  
養育。せし。人を。おふ。我を

養育

介抱せし人を何人ぞや。然るも  
 父母より久く妻を移すも一也也  
 あり。養老。鳥の鳥は人反哺也。  
 親一人を二人に以て之を行  
 人としく不孝なり。人をして  
 本心をもたざるを禽獸とす。於  
 たり。此の如し。少くも孝を  
 一也。



早良  
 一  
 二  
 三

みよる けしと 室直清と云ふ 此の  
おける 六諭行義大意 の うち ように  
はがた 十の あり なる ことを 母の  
よる 小 孝の 道 を 志しめ かつた  
この 文章 を おこなをせ おき のちくは  
詞の 巻 1 この 文章 は 例 句 成  
せしむ。 ことば 成る の 例 句 成  
おしめ ことば 成る の 例 句 成  
おしめ ことば 成る の 例 句 成  
おしめ ことば 成る の 例 句 成  
おしめ ことば 成る の 例 句 成

三編下終

明治四辛未年二月

官許

古川氏藏版

岡田屋

賣印所

吉和七

